

日商産一発 第63号

2011年12月28日

LOBO調査 実施商工会議所 御中

日本商工会議所

LOBO調査（2011年12月分）の集計結果の送付について

先般実施いたしました標記調査の集計結果を下記の通りご報告いたします。
実施商工会議所各位におかれましては、本調査結果をヒアリング対象企業へ送付されるほか、会合等での資料として積極的にご活用くださるようお願いいたします。
なお、本調査結果（ブロック別概況部分を除く）につきましては、日商ホームページに掲載しておりますので、併せてご利用ください。
（アドレスは <http://www.jcci.or.jp/lobo/lobo.html> です。）

（本件担当） 産業政策第一部 須田・張替
TEL：03-3283-7839
FAX：03-3213-8716
E-mail:sangyo1@jcci.or.jp

商工会議所LOBO（早期景気観測）

――2011年12月調査結果――

○調査期間：2011年12月14日～20日
○調査対象：全国の414商工会議所が2803企業にヒアリング
（東北については、被災を免れた企業や被害が軽微な企業から回答）

<産業別回収状況>				<ブロック別回収率>	
調査産業	調査対象数	回答数	回収率		
建設	414	208	50.2%	北海道	35.0%
製造	663	347	52.3%	東北	49.3%
卸売	292	156	53.4%	北陸信越	43.1%
小売	730	352	48.2%	関東	49.1%
サービス	704	323	45.9%	東海	61.4%
合計	2803	1386	49.4%	近畿	49.6%
				中国	45.4%
				四国	69.2%
				九州	49.5%

○調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況（DI値を集計）

※ DI値（景況判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算：(好転) - (悪化) 売上：(増加) - (減少)

――【2011年12月調査結果のポイント】――

業況DIは足踏み。先行きも慎重な見方が強まる

12月の全産業合計の業況DIは、▲34.9（前月比+0.6ポイント）と、前月からほぼ横ばい。業況は、マイナス35前後で足踏み状態に陥っている。第三次補正予算の執行が遅れていることに加え、超円高の長期化が、輸出の減少や取引先の海外移転加速による受注の減少など、企業経営に悪影響を及ぼしている。

先行きについては、先行き見通しDIが▲35.8（今月比▲0.9ポイント）と、来年も足踏み状態が続く見通し。超円高に伴う輸出の減少や取引先による生産・販売拠点の海外移転の加速を懸念する声が多いほか、第三次補正予算の本格的な執行が来春以降になる見通しであり、当面業況の改善が期待できないことから、先行きに対し慎重な見方が強まっている。

ブロック・産業別業況D I（前年同月比：2011年12月）

	全業種	建設	製造	卸売	小売	サービス
全 国	▲ 34.9	▲ 34.0	▲ 24.8	▲ 35.9	▲ 42.5	▲ 37.7
北 海 道	▲ 39.2	▲ 30.8	▲ 33.3	▲ 50.0	▲ 28.6	▲ 55.0
東 北	▲ 18.9	10.5	▲ 35.7	▲ 22.2	▲ 11.1	▲ 28.6
北陸信越	▲ 30.4	▲ 20.0	▲ 21.9	▲ 41.7	▲ 30.3	▲ 42.4
関 東	▲ 32.3	▲ 35.0	▲ 12.2	▲ 32.1	▲ 42.3	▲ 39.0
東 海	▲ 26.9	▲ 11.8	▲ 21.4	▲ 47.4	▲ 38.2	▲ 18.2
近 畿	▲ 38.7	▲ 50.0	▲ 18.2	▲ 18.8	▲ 49.1	▲ 55.3
中 国	▲ 47.1	▲ 40.0	▲ 35.5	▲ 33.3	▲ 76.2	▲ 46.2
四 国	▲ 46.3	▲ 58.8	▲ 37.9	▲ 60.0	▲ 51.9	▲ 36.0
九 州	▲ 44.4	▲ 65.2	▲ 46.4	▲ 35.3	▲ 52.8	▲ 22.6

ブロック・産業別業況D I（先行き見通し：2012年1～3月）

上段：2011年12月時点

下段：2010年12月時点

	全業種	建設	製造	卸売	小売	サービス
全 国	▲ 35.8	▲ 38.3	▲ 30.3	▲ 36.8	▲ 36.7	▲ 38.6
北 海 道	▲ 40.7	▲ 48.4	▲ 40.9	▲ 29.3	▲ 36.5	▲ 44.5
東 北	▲ 37.8	▲ 46.2	▲ 33.3	▲ 25.0	▲ 28.6	▲ 50.0
北陸信越	▲ 35.4	▲ 45.0	▲ 57.1	▲ 37.5	▲ 26.9	▲ 25.0
関 東	▲ 21.8	▲ 10.5	▲ 28.6	▲ 11.1	▲ 19.2	▲ 28.6
東 海	▲ 45.5	▲ 52.6	▲ 45.8	▲ 55.6	▲ 22.2	▲ 63.6
近 畿	▲ 40.0	▲ 48.0	▲ 40.6	▲ 41.7	▲ 33.3	▲ 39.4
中 国	▲ 34.8	▲ 44.8	▲ 37.1	▲ 8.3	▲ 32.5	▲ 35.7
四 国	▲ 32.9	▲ 35.0	▲ 23.6	▲ 37.7	▲ 30.2	▲ 40.0
九 州	▲ 38.6	▲ 46.4	▲ 45.6	▲ 17.1	▲ 30.8	▲ 43.6
	▲ 30.6	▲ 23.5	▲ 26.2	▲ 50.0	▲ 35.3	▲ 24.2
	▲ 40.7	▲ 45.5	▲ 39.5	▲ 50.0	▲ 36.7	▲ 37.8
	▲ 41.9	▲ 40.9	▲ 34.5	▲ 43.8	▲ 43.6	▲ 50.0
	▲ 45.4	▲ 47.4	▲ 37.0	▲ 42.1	▲ 46.3	▲ 53.2
	▲ 42.5	▲ 40.0	▲ 25.8	▲ 33.3	▲ 61.9	▲ 61.5
	▲ 48.4	▲ 62.5	▲ 42.4	▲ 16.7	▲ 50.0	▲ 78.6
	▲ 36.1	▲ 41.2	▲ 24.1	▲ 40.0	▲ 40.7	▲ 40.0
	▲ 36.6	▲ 42.9	▲ 20.0	▲ 27.3	▲ 38.7	▲ 50.0
	▲ 43.0	▲ 60.9	▲ 50.0	▲ 29.4	▲ 47.2	▲ 25.8
	▲ 45.2	▲ 61.9	▲ 46.9	▲ 22.2	▲ 47.1	▲ 35.7

※「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しD I（以下同じ）

産業別にみると、業況D Iは、製造業、小売業はマイナス幅が縮小したものの、サービス業はほぼ横ばい、建設業、卸売業は拡大した。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「今後、復興の進展に伴い、鉄筋工等の技術者が被災地に流れ、地元の建築労働者が不足することを懸念」（一般工事業）、「原発事故により、新規原発の建設が延期もしくは中止となった。原発施設内の配電盤や制御盤の取付工事について受注見通しがたたない」（電気工事業）、「コンクリートや鉄骨など建築資材価格は今後も高止まりする見通し。一方、工事の受注価格は上がっておらず、利益確保が困難」（建築工事業）

【製造業】「タイ洪水の影響がほぼ収束したため、今後は増産体制に移る予定」（自動車部品製造業）、「タイに生産拠点がある取引先の要請を受け、海外進出に向けた現地調査を実施中。1、2年以内には自社も現地で生産を始める予定」（建設・鉱山機械製造業）、「インキ、刷版、用紙等、印刷に必要な資材の多くが値上がりし、採算が悪化」（印刷業）

【卸売業】「取引先が海外での生産拡大や部材の現地調達を進めており、自社の受注が減少」（服飾付属品卸売業）、「牛肉は、放射能汚染の心配がない九州産の需要が堅調」（農畜産物卸売業）、「漁獲量が前年比約2割増加。需給が緩和され、仕入価格が低下」（水産物卸売業）

【小売業】「気温の低下に伴い、コート等冬物衣料の売上が伸びている」（商店街）、「原発事故から約9カ月が経ち、風評被害の影響が緩和され、売上が持ち直している」（ギフト専門店）、「円高により輸入原材料の価格上昇が幾分抑えられている」（菓子小売業）

【サービス業】「タイ洪水は一時期と比べ、事態が収束しており、年末年始における荷動きの回復が期待できる」（運送業）、「忘年会の売上が期待ほど伸びていない」（旅館）、「来年4月から、条例で幹線道路沿いの建築物に耐震診断が義務付けられるため、診断の依頼が増加」（不動産管理業）

【業況についての判断】

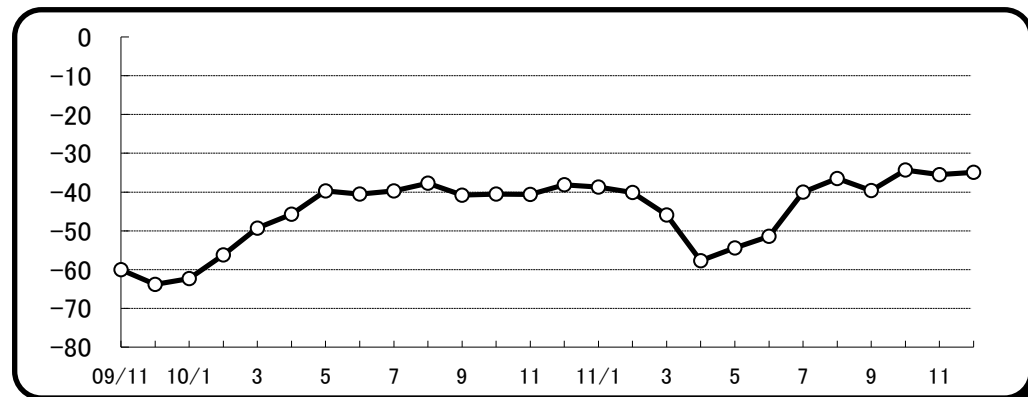
○12月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は▲34.9（前月比+0.6ポイント）となり、前月からほぼ横ばいで推移。産業別にみると、製造業は、タイ洪水がほぼ終息し、自動車を中心に再び増産の動きが出ていることから、マイナス幅が縮小。小売業は、僅かながら業況が改善。サービス業はほぼ横ばい。一方、建設業は、第一次・第二次補正予算による復旧工事が一段落しつつあるうえ、第三次補正予算の執行が遅れていること、卸売業は、超円高に伴う製造業の海外移転により、国内での企業間取引が落ち込んでいることから、マイナス幅が拡大。
 ○向こう3カ月（12年1～3月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）は▲35.8（今月比▲0.9ポイント）と、来年も足踏み状態が続く見込み。
 ○産業別に先行き見通しをみると、今月と比べ、小売業は、気温のさらなる低下による冬物商品の売上増加、年末・年始での消費拡大への期待からマイナス幅が縮小する見込み。卸売業、サービス業はほぼ横ばい。一方、建設業は、第三次補正予算の本格的な執行が来春以降になる見通しであること、製造業は、超円高に伴う輸出の減少や取引先による生産・販売拠点の海外移転の加速への懸念が強いことから、マイナス幅が拡大する見込み。

業況DI（前年同月比）の推移

	11年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 12年1～3月
全産業	▲40.0	▲36.5	▲39.6	▲34.3	▲35.5	▲34.9	▲35.8
建設	▲45.8	▲48.4	▲38.2	▲30.7	▲30.1	▲34.0	▲38.3
製造	▲32.9	▲28.1	▲33.5	▲26.2	▲29.2	▲24.8	▲30.3
卸売	▲47.3	▲35.4	▲34.7	▲38.8	▲32.9	▲35.9	▲36.8
小売	▲35.1	▲38.9	▲45.8	▲37.6	▲44.1	▲42.5	▲36.7
サービス	▲45.9	▲35.5	▲42.8	▲39.4	▲38.0	▲37.7	▲38.6

※「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しDI

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



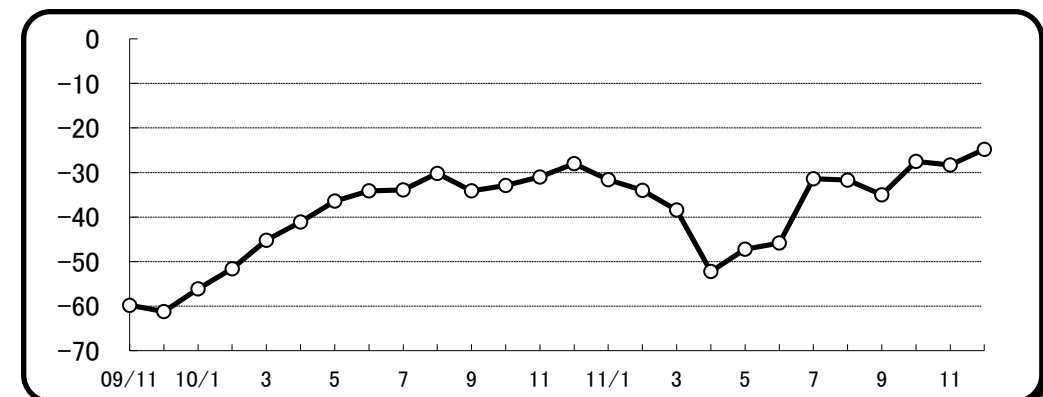
【売上（受注・出荷）についての判断】

○売上面では、全産業合計の売上DIは▲24.8（前月比+3.5ポイント）と、マイナス幅は2カ月ぶりに縮小。産業別にみると、卸売業はマイナス幅が拡大したものの、建設業はほぼ横ばい、他の3業種は縮小した。特に、小売業は、気温の低下に伴い、冬物商品の売上が持ち直していることから、マイナス幅が大幅に縮小。
 ○向こう3カ月（12年1～3月）の先行き見通しについては、全産業合計の売上DI（今月比ベース）は▲31.9と、今月から▲7.1ポイントの大幅な悪化を見込んでいる。超円高傾向が今後も続く見通しであることから、輸出の減少や取引先による生産・販売拠点の海外移転の加速に伴う受注の減少への懸念が強い。加えて、復興需要関連の受注が当面見込めないこともDIの悪化につながっている。
 ○産業別に先行き見通しをみると、今月と比べ、小売業はマイナス幅が縮小するものの、他の4業種は大幅に拡大する見込み。

売上（受注・出荷）DI（前年同月比）の推移

	11年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 12年1～3月
全産業	▲31.4	▲31.7	▲35.0	▲27.5	▲28.3	▲24.8	▲31.9
建設	▲37.4	▲38.6	▲36.4	▲26.6	▲24.1	▲24.0	▲32.2
製造	▲21.1	▲20.5	▲23.0	▲13.7	▲13.0	▲11.0	▲24.7
卸売	▲43.8	▲37.3	▲32.7	▲29.7	▲22.6	▲23.7	▲32.1
小売	▲27.7	▲39.4	▲44.6	▲32.0	▲41.8	▲32.5	▲31.2
サービス	▲37.2	▲28.5	▲37.9	▲36.3	▲35.7	▲32.2	▲39.9

《売上（受注・出荷）DI（全産業・前年同月比）の推移》



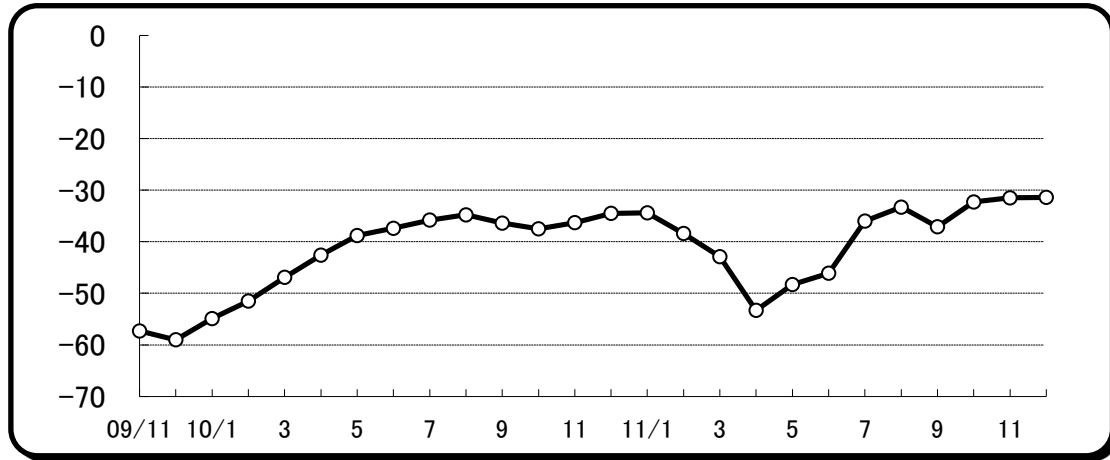
【採算の状況についての判断】

○採算面では、全産業合計の採算DIは▲31.4（前月比+0.1ポイント）と、前月からほぼ横ばいで推移。産業別にみると、建設業、小売業はマイナス幅が拡大したものの、サービス業はほぼ横ばい、他の2業種は縮小した。
 ○向こう3カ月（12年1～3月）の先行き見通しについては、全産業合計の採算DI（今月比ベース）は▲33.9と、今月から▲2.5ポイントの悪化を見込んでいる。
 ○産業別に先行き見通しをみると、今月と比べ、小売業はマイナス幅が縮小するものの、建設業は横ばい、他の3業種は拡大する見込み。特に、製造業では、超円高の定着に伴う輸出採算の悪化懸念が広がっているため、大幅に悪化する見通し。

採算DI（前年同月比）の推移

	11年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 12年1～3月
全産業	▲36.0	▲33.3	▲37.1	▲32.3	▲31.5	▲31.4	▲33.9
建設	▲49.3	▲47.1	▲40.1	▲38.2	▲35.0	▲36.9	▲36.9
製造	▲29.0	▲29.3	▲32.9	▲24.9	▲24.2	▲22.3	▲31.9
卸売	▲42.7	▲31.2	▲30.7	▲28.4	▲28.3	▲26.3	▲29.7
小売	▲27.3	▲33.1	▲39.4	▲31.8	▲34.2	▲35.2	▲32.5
サービス	▲41.6	▲29.7	▲40.1	▲38.4	▲35.8	▲36.2	▲37.8

《採算DI（全産業・前年同月比）の推移》



(参考)

資金繰りDI（前年同月比）の推移

	11年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 12年1～3月
全産業	▲24.9	▲23.0	▲24.4	▲22.2	▲21.2	▲21.3	▲24.1
建設	▲37.2	▲33.2	▲33.7	▲29.0	▲23.3	▲29.4	▲32.4
製造	▲19.7	▲18.2	▲21.4	▲17.6	▲15.5	▲11.4	▲17.3
卸売	▲15.4	▲11.5	▲14.1	▲17.7	▲20.4	▲15.5	▲17.5
小売	▲23.8	▲24.6	▲24.1	▲23.2	▲23.0	▲24.8	▲24.0
サービス	▲27.8	▲25.4	▲26.5	▲23.5	▲24.3	▲25.9	▲29.3

DI = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比DI】全産業合計の資金繰りDIは▲21.3となり、前月からほぼ横ばいで推移。産業別にみると、製造業、卸売業はマイナス幅が縮小したものの、他の3業種は拡大した。
 【先行き見通しDI】全産業合計の先行き見通しをみると、マイナス幅は今月と比べ拡大する見通し。産業別にみると、小売業はほぼ横ばいとなるものの、他の4業種はマイナス幅が拡大する見込み。特に、建設業は、第三次補正予算の執行に伴う復興需要関連の受注が当面見込めないこと、製造業は、輸出企業における、超円高の継続による受注減少見通しにより、資金繰り悪化への懸念が広がっている。

仕入単価DI（前年同月比）の推移

	11年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 12年1～3月
全産業	▲33.7	▲29.2	▲30.0	▲27.8	▲25.8	▲23.3	▲20.0
建設	▲45.0	▲31.8	▲35.1	▲34.3	▲31.4	▲30.9	▲27.5
製造	▲40.2	▲38.6	▲40.2	▲35.6	▲33.8	▲32.9	▲23.4
卸売	▲24.4	▲25.9	▲29.5	▲22.3	▲25.2	▲17.9	▲18.2
小売	▲25.9	▲19.3	▲21.0	▲19.8	▲15.2	▲12.9	▲13.5
サービス	▲31.8	▲29.3	▲25.7	▲26.7	▲25.1	▲22.1	▲19.6

DI = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比DI】全産業合計の仕入単価DIは▲23.3と、マイナス幅は3カ月連続で縮小。原材料価格の上昇は総じて一段落しつつあるが、多くの品目で依然高止まりしている。産業別にみると、建設業、製造業はほぼ横ばいだったものの、他の3業種はマイナス幅が縮小した。
 【先行き見通しDI】全産業合計の先行き見通しをみると、マイナス幅は今月と比べ縮小する見通し。産業別にみると、卸売業、小売業はほぼ横ばいとなるものの、他の3業種はマイナス幅が縮小する見込み。特に、製造業は、国際商品相場の低下が原材料価格に反映される見通しであることから、DIが大幅に改善する見込み。

従業員DI（前年同月比）の推移

	11年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 12年1～3月
全産業	▲7.1	▲5.6	▲4.6	▲4.3	▲3.4	▲3.8	▲4.8
建設	▲11.4	▲13.2	▲13.2	▲4.8	▲2.2	▲8.8	▲11.3
製造	▲8.0	▲5.2	▲4.3	▲3.7	▲6.8	▲6.7	▲5.8
卸売	▲17.6	▲11.4	▲8.0	▲8.8	▲5.7	▲9.6	▲9.7
小売	▲0.6	▲1.4	0.0	▲3.5	▲1.9	2.0	0.9
サービス	▲6.1	▲2.9	▲2.5	▲3.4	▲1.2	▲1.2	▲3.4

DI = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比DI】全産業合計の従業員DIは▲3.8となり、前月からほぼ横ばいで推移。産業別にみると、小売業は、2008年9月以来のDI値プラスとなったが、回答の内訳をみると前年比で「不変」との回答が主で、人手不足感が強まっている訳ではないことに留意が必要。一方、製造業、サービス業はほぼ横ばい、他の2業種はマイナス幅が拡大した。特に、建設業は、復旧工事の受注が一段落しつつあることから、過剰感が強まっている。
 【先行き見通しDI】全産業合計の先行き見通しをみると、マイナス幅は今月と比べ拡大する見通し。産業別にみると、製造業、卸売業はほぼ横ばいとなるものの、復興需要の動向を慎重にみている建設業をはじめ、小売業、サービス業はDIが悪化する見通し。

2011年12月

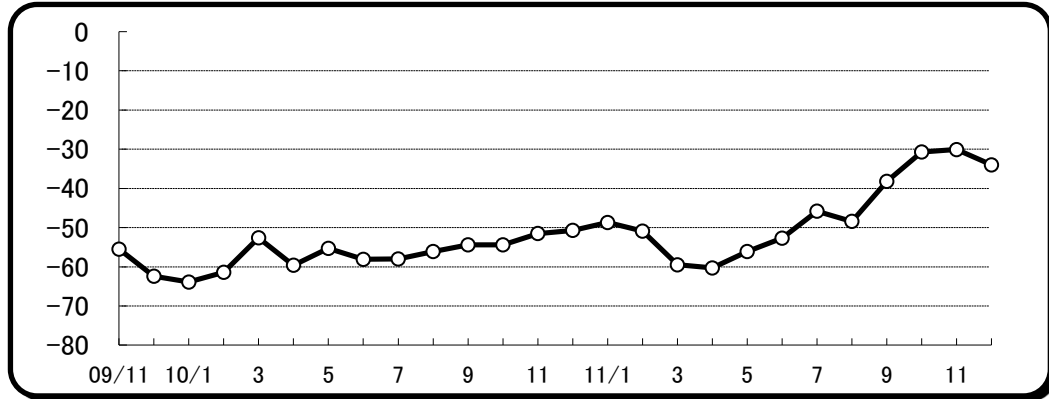
	売上(受注・出荷)		採算		資金繰り		仕入単価		従業員		業況	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種												
全国	-24.8	-31.9	-31.4	-33.9	-21.3	-24.1	-23.3	-20.0	-3.8	-4.8	-34.9	-35.8
北海道	-24.0	-25.3	-32.4	-29.7	-21.9	-20.5	-18.9	-14.9	-9.5	-9.5	-39.2	-37.8
東北	-18.0	-28.2	-25.2	-31.8	-23.6	-25.7	-28.8	-25.5	3.6	1.8	-18.9	-21.8
北陸信越	-23.0	-43.3	-28.4	-43.7	-19.3	-30.4	-22.4	-23.9	-3.0	-8.1	-30.4	-40.0
関東	-16.7	-25.6	-27.7	-32.8	-16.1	-19.6	-23.2	-17.1	-2.0	-2.3	-32.3	-32.9
東海	-21.4	-24.3	-30.3	-21.0	-17.9	-18.7	-18.9	-18.3	-2.8	-4.2	-26.9	-30.6
近畿	-31.0	-40.1	-32.1	-37.8	-23.2	-22.0	-22.4	-19.7	-1.6	-1.6	-38.7	-41.9
中国	-38.6	-28.4	-29.5	-24.1	-29.9	-28.7	-20.7	-15.1	-18.2	-14.8	-47.1	-42.5
四国	-36.1	-36.1	-41.7	-36.1	-24.1	-29.6	-29.6	-22.2	-4.6	-7.4	-46.3	-36.1
九州	-33.3	-41.5	-43.7	-44.4	-29.6	-32.1	-25.4	-26.9	-7.4	-8.1	-44.4	-43.0
建設												
全国	-24.0	-32.2	-36.9	-36.9	-29.4	-32.4	-30.9	-27.5	-8.8	-11.3	-34.0	-38.3
北海道	-50.0	-42.9	-38.5	-38.5	-38.5	-61.5	-23.1	-15.4	-15.4	-30.8	-30.8	-46.2
東北	5.3	-21.1	5.3	-26.3	-5.3	-15.8	-52.6	-42.1	21.1	10.5	10.5	-10.5
北陸信越	-16.0	-52.0	-28.0	-48.0	-20.0	-32.0	-32.0	-40.0	-8.0	-12.0	-20.0	-48.0
関東	-20.0	-21.7	-38.3	-35.0	-31.0	-24.1	-29.3	-24.1	-5.2	-6.9	-35.0	-35.0
東海	11.8	-11.8	-29.4	-17.6	-29.4	-29.4	-17.6	-17.6	0.0	5.9	-11.8	-23.5
近畿	-30.4	-30.4	-40.9	-22.7	-27.3	-13.6	-13.6	-4.5	-4.5	-4.5	-50.0	-40.9
中国	-40.0	-10.0	-30.0	-50.0	-30.0	-30.0	-30.0	-30.0	-30.0	-30.0	-40.0	-40.0
四国	-47.1	-47.1	-58.8	-47.1	-35.3	-52.9	-41.2	-29.4	-17.6	-17.6	-58.8	-41.2
九州	-47.8	-56.5	-65.2	-52.2	-47.8	-56.5	-39.1	-43.5	-34.8	-34.8	-65.2	-60.9
製造												
全国	-11.0	-24.7	-22.3	-31.9	-11.4	-17.3	-32.9	-23.4	-6.7	-5.8	-24.8	-30.3
北海道	8.3	0.0	-41.7	-41.7	-25.0	-8.3	-50.0	-33.3	-16.7	-8.3	-33.3	-33.3
東北	-10.7	-42.9	-32.1	-46.4	-21.4	-21.4	-35.7	-35.7	-10.7	0.0	-35.7	-28.6
北陸信越	-12.5	-40.6	-25.0	-37.5	-9.4	-21.9	-29.0	-25.8	-9.4	-15.6	-21.9	-40.6
関東	1.1	-12.5	-16.7	-29.2	-4.5	-13.6	-34.4	-21.1	-5.7	-2.3	-12.2	-23.6
東海	-11.9	-22.0	-19.0	-17.1	-2.4	-7.3	-21.4	-21.4	-2.4	-4.8	-21.4	-26.2
近畿	-7.3	-40.0	-5.6	-32.7	-17.0	-22.6	-41.8	-27.3	-7.3	-7.3	-18.2	-34.5
中国	-19.4	-3.2	-25.8	-12.9	-6.5	-16.1	-29.0	-3.2	-6.5	-9.7	-35.5	-25.8
四国	-37.9	-24.1	-34.5	-31.0	-17.2	-24.1	-20.7	-24.1	0.0	-3.4	-37.9	-24.1
九州	-25.0	-35.7	-39.3	-57.1	-21.4	-21.4	-39.3	-28.6	-10.7	-7.1	-46.4	-50.0

2011年12月

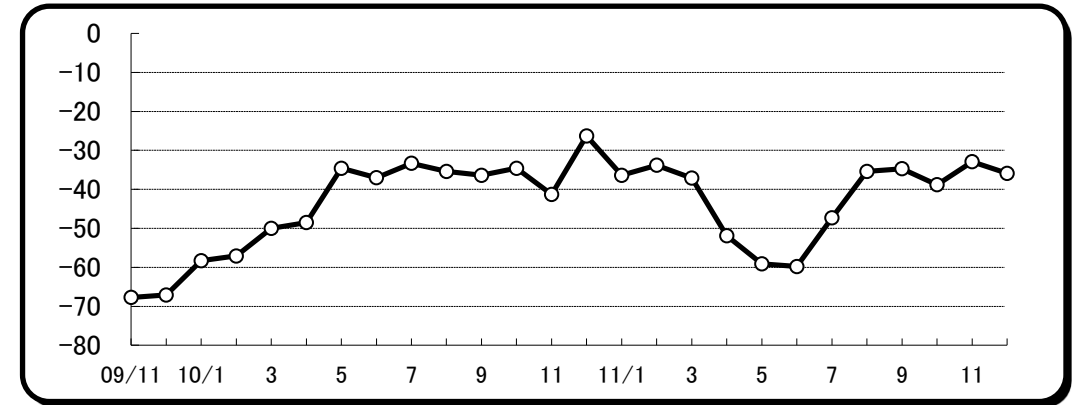
	売上(受注・出荷)		採算		資金繰り		仕入単価		従業員		業況	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
卸売												
全国	-23.7	-32.1	-26.3	-29.7	-15.5	-17.5	-17.9	-18.2	-9.6	-9.7	-35.9	-36.8
北海道	-50.0	-12.5	-12.5	-12.5	0.0	12.5	-50.0	-25.0	-12.5	-12.5	-50.0	-25.0
東北	-22.2	-22.2	-22.2	-11.1	-22.2	-33.3	-33.3	-11.1	0.0	0.0	-22.2	-11.1
北陸信越	-25.0	-33.3	-25.0	-41.7	-33.3	-33.3	-25.0	-8.3	0.0	-16.7	-41.7	-41.7
関東	-7.5	-22.6	-17.0	-30.2	-3.8	-13.2	-17.0	-11.3	-5.7	-5.7	-32.1	-37.7
東海	-42.1	-36.8	-52.6	-38.9	-38.9	-41.2	-26.3	-33.3	-21.1	-16.7	-47.4	-50.0
近畿	-6.3	-50.0	0.0	-31.3	-12.5	-6.3	6.3	-18.8	-6.3	-6.3	-18.8	-43.8
中国	-33.3	-41.7	-25.0	-16.7	-25.0	-16.7	33.3	0.0	-16.7	-16.7	-33.3	-33.3
四国	-50.0	-40.0	-40.0	-20.0	-30.0	-20.0	-50.0	-40.0	-10.0	-10.0	-60.0	-40.0
九州	-35.3	-41.2	-52.9	-41.2	-5.9	-11.8	-23.5	-29.4	-17.6	-11.8	-35.3	-29.4
小売												
全国	-32.5	-31.2	-35.2	-32.5	-24.8	-24.0	-12.9	-13.5	2.0	0.9	-42.5	-36.7
北海道	-9.5	-19.0	-19.0	-14.3	-5.0	-10.0	-4.8	0.0	0.0	0.0	-28.6	-28.6
東北	-3.7	3.8	-18.5	-7.7	-26.9	-20.0	-18.5	-15.4	3.7	0.0	-11.1	-19.2
北陸信越	-33.3	-34.4	-25.0	-51.5	-18.2	-27.3	-6.1	-15.2	0.0	-3.0	-30.3	-33.3
関東	-22.7	-27.8	-33.0	-29.9	-18.1	-17.0	-9.3	-6.2	6.3	6.3	-42.3	-30.2
東海	-35.3	-35.3	-32.4	-20.6	-21.9	-18.8	-11.8	-17.6	0.0	-5.9	-38.2	-35.3
近畿	-50.9	-36.4	-48.1	-38.9	-29.4	-23.5	-11.3	-17.0	0.0	0.0	-49.1	-43.6
中国	-66.7	-52.4	-38.1	-30.0	-45.0	-35.0	-30.0	-25.0	-23.8	-9.5	-76.2	-61.9
四国	-33.3	-33.3	-51.9	-40.7	-29.6	-33.3	-33.3	-25.9	11.1	3.7	-51.9	-40.7
九州	-41.7	-44.4	-41.7	-47.2	-38.9	-42.9	-8.3	-13.9	5.6	2.8	-52.8	-47.2
サービス												
全国	-32.2	-39.9	-36.2	-37.8	-25.9	-29.3	-22.1	-19.6	-1.2	-3.4	-37.7	-38.6
北海道	-30.0	-40.0	-45.0	-40.0	-35.0	-25.0	0.0	-15.0	-10.0	-5.0	-55.0	-50.0
東北	-53.6	-50.0	-46.4	-50.0	-35.7	-39.3	-14.3	-17.9	7.1	0.0	-28.6	-28.6
北陸信越	-27.3	-51.5	-36.4	-39.4	-24.2	-39.4	-24.2	-24.2	3.0	0.0	-42.4	-39.4
関東	-29.7	-38.6	-31.7	-38.6	-22.2	-28.3	-26.3	-23.2	-3.0	-6.0	-39.0	-40.0
東海	-24.2	-15.2	-30.3	-18.2	-15.6	-15.6	-19.4	-6.5	3.0	0.0	-18.2	-24.2
近畿	-47.4	-47.4	-55.3	-55.3	-25.7	-31.4	-27.0	-21.6	7.9	7.9	-55.3	-50.0
中国	-42.9	-50.0	-28.6	-28.6	-64.3	-57.1	-28.6	-28.6	-28.6	-21.4	-46.2	-61.5
四国	-24.0	-44.0	-28.0	-36.0	-16.0	-20.0	-20.0	-4.0	-16.0	-16.0	-36.0	-40.0
九州	-19.4	-32.3	-29.0	-25.8	-25.8	-22.6	-23.3	-26.7	6.5	0.0	-22.6	-25.8

業況D I（前年同月比）の推移（全国）

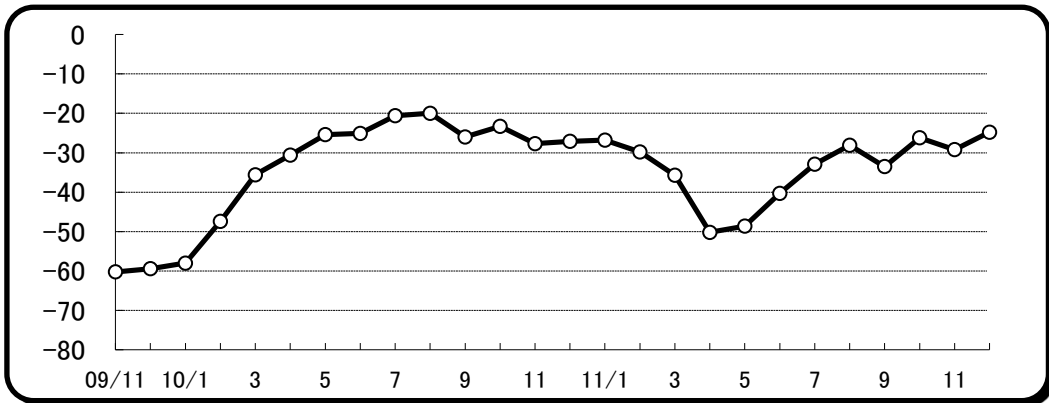
建設業



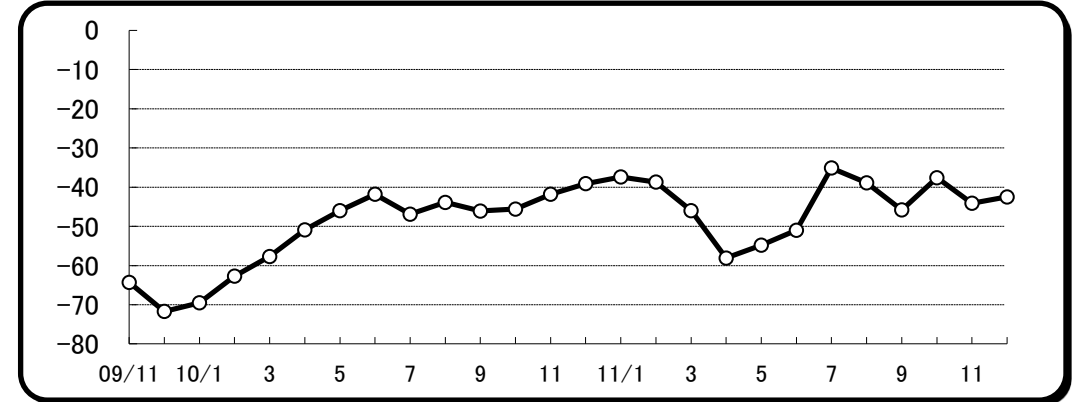
卸売業



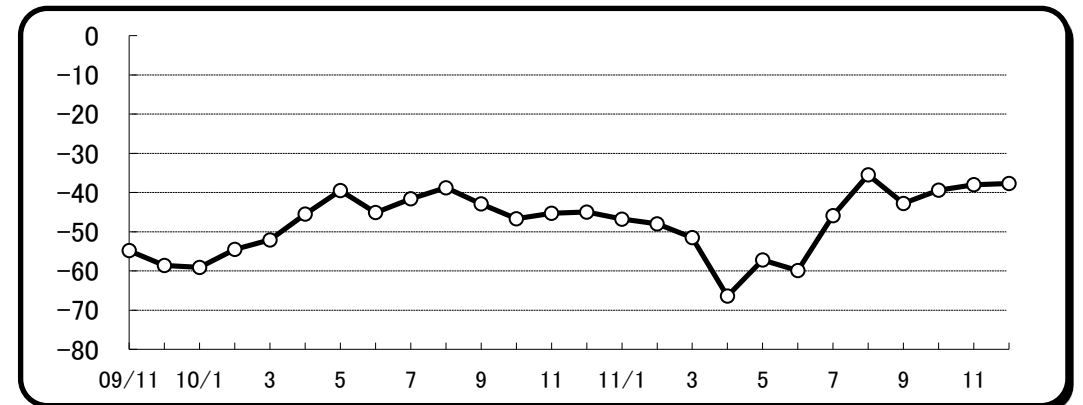
製造業



小売業



サービス業



【ブロック別概況・北海道】

○全産業の業況DIは、前月と比べほぼ横ばいとなった。産業別では、建設、製造、小売はマイナス幅が縮小したもの、他の2業種は拡大した。
 ○水産食料品製造業からは、「輸入水産物の仕入価格が高止まりしている一方、取引先である量販店から納品価格を下げられ、採算が厳しい」とのコメント。総合スーパーからは、「年末年始を家で家族と過ごす動きが出ており、クリスマスケーキやおせち料理の売上が好調」とのコメント。旅行業からは、「年末年始の日本から海外への旅行の予約が好調。しかし、中国、韓国からの訪日観光客は依然として低迷している」との声、食堂からは、「道央と道東を結ぶ高速道路が開通。年末年始における来客数増加による売上の伸びを期待」とのコメントが寄せられた。
 ○業況の先行き見通しDIは、全産業では今月からマイナス幅が縮小する見込み。産業別にみると、建設はマイナス幅が拡大するものの、製造、小売は横ばい、他の2業種は縮小する見込み。

全産業DI（前年同月比）の推移

	11年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 12年1～3月
業況	▲ 33.3	▲ 30.6	▲ 37.7	▲ 31.1	▲ 38.7	▲ 39.2	▲ 37.8
売上	▲ 24.2	▲ 23.0	▲ 32.9	▲ 29.3	▲ 42.1	▲ 24.0	▲ 25.3
採算	▲ 28.8	▲ 22.2	▲ 36.2	▲ 28.4	▲ 29.3	▲ 32.4	▲ 29.7
資金繰り	▲ 12.3	▲ 12.7	▲ 21.7	▲ 23.6	▲ 23.0	▲ 21.9	▲ 20.5
仕入単価	▲ 30.3	▲ 16.7	▲ 23.2	▲ 17.6	▲ 20.3	▲ 18.9	▲ 14.9
従業員	▲ 10.6	▲ 2.8	▲ 13.0	▲ 5.4	▲ 6.7	▲ 9.5	▲ 9.5

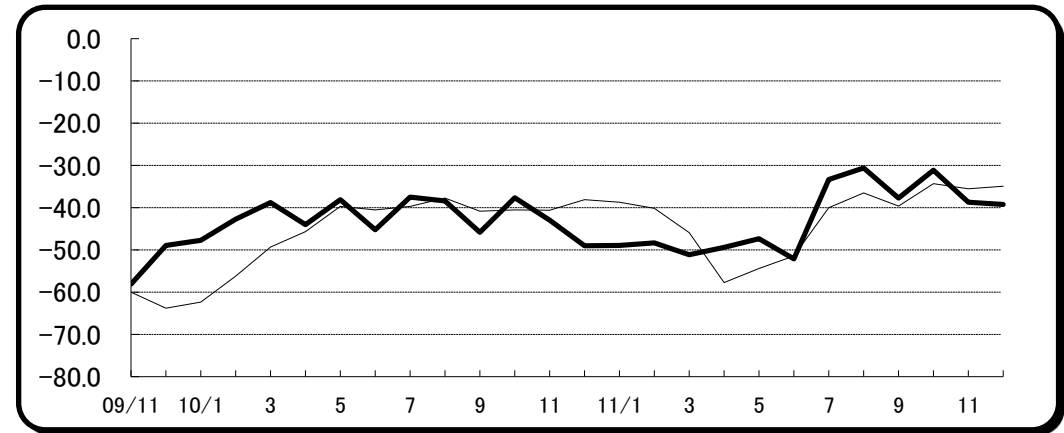
産業別業況DI（前年同月比）の推移

	11年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 12年1～3月
建設	▲ 50.0	▲ 36.4	▲ 53.8	▲ 28.6	▲ 42.9	▲ 30.8	▲ 46.2
製造	▲ 36.4	▲ 50.0	▲ 54.5	▲ 53.8	▲ 58.3	▲ 33.3	▲ 33.3
卸売	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 14.3	▲ 50.0	▲ 25.0	▲ 50.0	▲ 25.0
小売	▲ 16.7	▲ 33.3	▲ 42.1	▲ 23.8	▲ 45.0	▲ 28.6	▲ 28.6
サービス	▲ 36.8	▲ 13.6	▲ 21.1	▲ 20.0	▲ 23.8	▲ 55.0	▲ 50.0

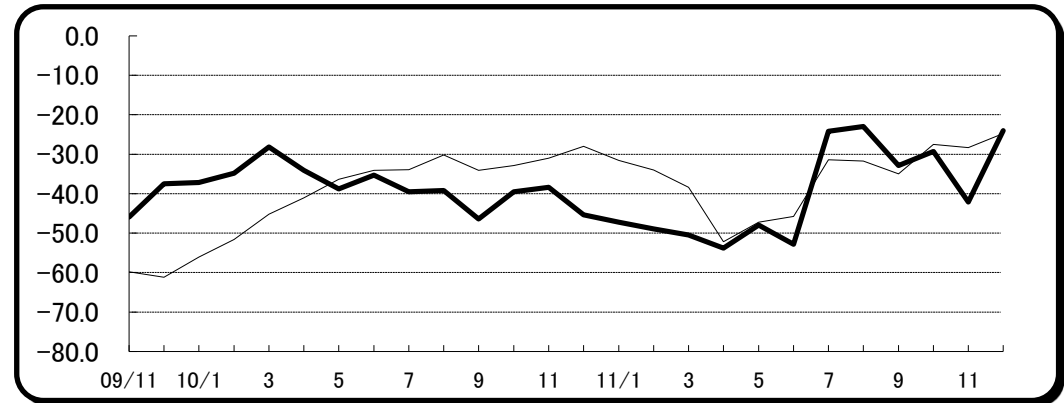
ブロック別全産業DI（前年同月比）の推移（北海道）

—— 北海道 —— 全国

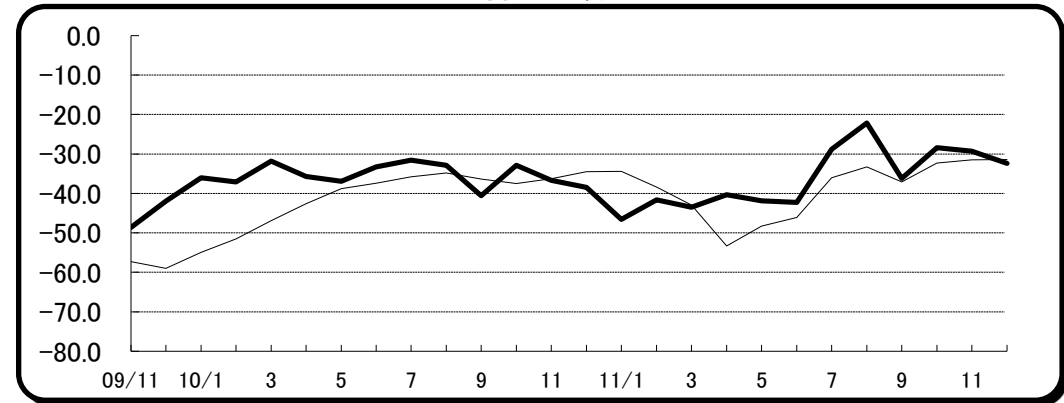
業況



売上



採算



【ブロック別概況・東北】

○全産業の業況DIは、マイナス幅が2カ月ぶりに拡大。産業別にみると、サービスは業況が改善したものの、他の4業種は悪化した。

○電気工事業からは、「原発事故の影響で、農家・商工業者の所得が大幅に減少している。今後住宅建設数が落ち込む見通しのため、工事の受注減少を懸念」とのコメント。酒類製造業からは、「復興支援として東北産の酒を購入する動きが広がり、売上が増加」との声、医療用機械製造業からは、「取引先が生産拠点の国内外への分散を検討している。今後受注の減少が考えられ、設備投資には慎重にならざるを得ない」とのコメント。旅館からは、「風評被害の影響が続き、宿泊客数は例年の6～7割程度にとどまっている」とのコメントが寄せられた。

○業況の先行き見通しDIは、全産業では今月からマイナス幅が拡大する見込み。産業別にみると、製造、卸売は業況が改善するものの、サービスは横ばい、他の2業種は悪化する見込み。

全産業DI（前年同月比）の推移

	11年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 12年1～3月
業況	▲ 10.5	▲ 12.4	▲ 24.7	▲ 18.5	▲ 13.0	▲ 18.9	▲ 21.8
売上	▲ 11.5	▲ 15.3	▲ 18.5	▲ 5.6	▲ 1.7	▲ 18.0	▲ 28.2
採算	▲ 17.9	▲ 22.4	▲ 32.3	▲ 18.5	▲ 19.1	▲ 25.2	▲ 31.8
資金繰り	▲ 9.7	▲ 7.4	▲ 18.7	▲ 20.6	▲ 14.0	▲ 23.6	▲ 25.7
仕入単価	▲ 42.1	▲ 41.8	▲ 34.4	▲ 32.4	▲ 29.6	▲ 28.8	▲ 25.5
従業員	▲ 1.0	5.1	0.0	▲ 0.9	8.7	3.6	1.8

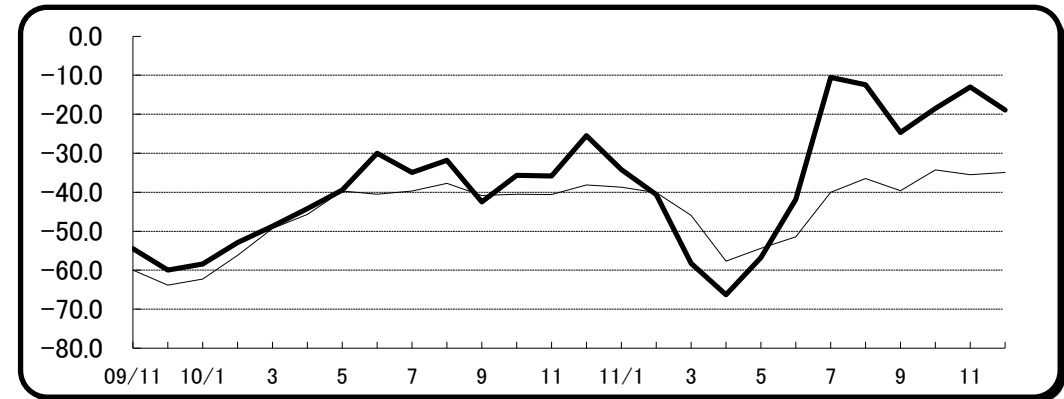
産業別業況DI（前年同月比）の推移

	11年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 12年1～3月
建設	▲ 5.6	▲ 11.8	23.5	21.1	22.7	10.5	▲ 10.5
製造	0.0	▲ 34.6	▲ 42.9	▲ 25.9	▲ 23.3	▲ 35.7	▲ 28.6
卸売	▲ 14.3	14.3	0.0	▲ 30.0	10.0	▲ 22.2	▲ 11.1
小売	▲ 4.0	12.5	▲ 28.0	▲ 11.5	▲ 9.7	▲ 11.1	▲ 19.2
サービス	▲ 28.0	▲ 21.7	▲ 50.0	▲ 42.3	▲ 50.0	▲ 28.6	▲ 28.6

ブロック別全産業DI（前年同月比）の推移（東北）

—— 東北 —— 全国

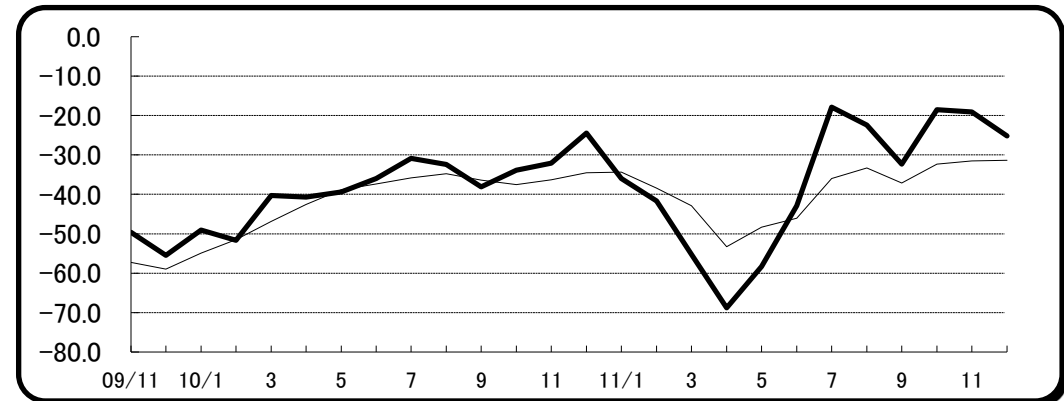
業況



売上



採算



【ブロック別概況・北陸信越】

○全産業の業況DIは、マイナス幅が2カ月ぶりに縮小。産業別にみても、全ての業種でマイナス幅が縮小した。
 ○一般工事業からは、「型枠工、鉄筋工、内装工等の技術者不足により、賃金が上昇し、採算が悪化」とのコメント。調味料製造業からは、「梱包に使う段ボールが今月から10%値上がりした。加えて、灯油価格も高止まりしており、採算が厳しい」とのコメント。百貨店からは、「欧州財政危機や円高・株安等、景気の先行きが不透明なため、富裕層が消費に慎重になっている」とのコメント。旅館からは、「駅前の大型ビル再開発に伴い、駅周辺のホテルは工事関係者の宿泊が増加」とのコメントが寄せられた。
 ○業況の先行き見通しDIは、全産業では今月からマイナス幅が拡大する見込み。産業別にみると、サービスはマイナス幅が縮小するものの、卸売は横ばい、他の3業種は拡大する見込み。

全産業DI（前年同月比）の推移

	11年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 12年1~3月
業況	▲ 52.3	▲ 38.7	▲ 44.4	▲ 30.2	▲ 41.9	▲ 30.4	▲ 40.0
売上	▲ 45.4	▲ 26.5	▲ 34.2	▲ 22.4	▲ 36.9	▲ 23.0	▲ 43.3
採算	▲ 46.9	▲ 37.4	▲ 38.5	▲ 29.3	▲ 34.4	▲ 28.4	▲ 43.7
資金繰り	▲ 36.5	▲ 28.6	▲ 30.8	▲ 20.4	▲ 23.8	▲ 19.3	▲ 30.4
仕入単価	▲ 30.2	▲ 30.5	▲ 31.0	▲ 24.6	▲ 22.2	▲ 22.4	▲ 23.9
従業員	▲ 14.7	▲ 9.0	▲ 1.7	1.7	▲ 3.8	▲ 3.0	▲ 8.1

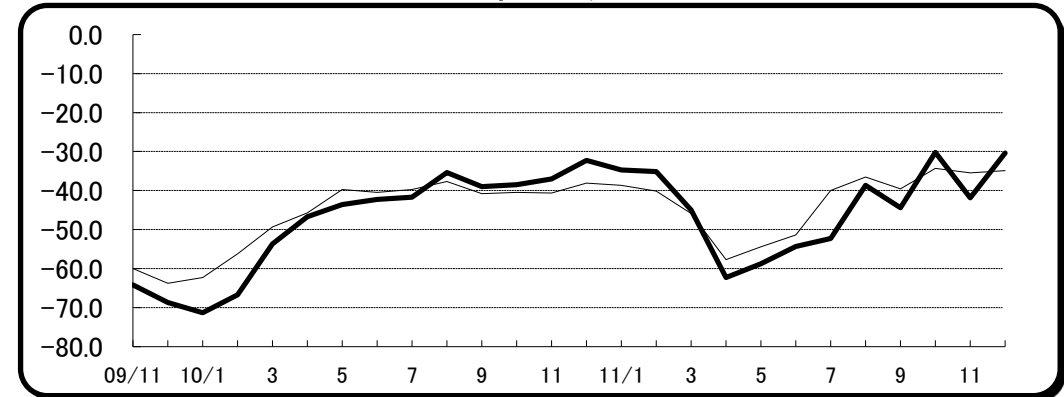
産業別業況DI（前年同月比）の推移

	11年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 12年1~3月
建設	▲ 54.2	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 31.8	▲ 46.7	▲ 20.0	▲ 48.0
製造	▲ 38.7	▲ 32.5	▲ 32.1	▲ 3.6	▲ 24.3	▲ 21.9	▲ 40.6
卸売	▲ 50.0	▲ 28.6	▲ 33.3	▲ 80.0	▲ 50.0	▲ 41.7	▲ 41.7
小売	▲ 50.0	▲ 47.4	▲ 59.3	▲ 31.3	▲ 48.8	▲ 30.3	▲ 33.3
サービス	▲ 67.7	▲ 44.4	▲ 57.7	▲ 37.5	▲ 44.7	▲ 42.4	▲ 39.4

ブロック別全産業DI（前年同月比）の推移（北陸信越）

—— 北陸信越 —— 全国

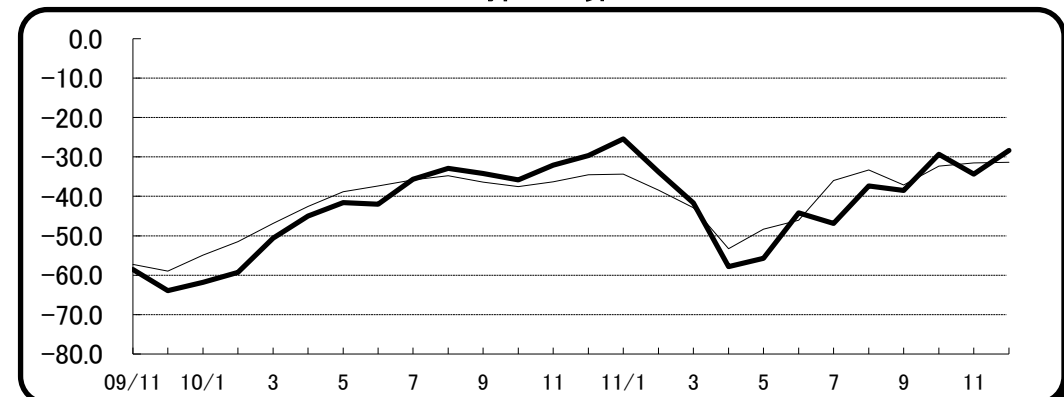
業況



売上



採算



【ブロック別概況・関東】

○全産業の業況DIは、マイナス幅が3カ月ぶりに拡大。産業別にみると、製造はマイナス幅が縮小したものの、他の4業種は拡大した。
 ○金物類製造業からは、「仕入先から部材価格の値上げ要請があったため、価格の安い海外製の品質調査を実施中」との声、自動車部品製造業からは、「親企業の生産拠点の海外移転が進んでおり、今後の受注減少が大きな不安。設備投資や人員採用に踏み切れる状況にない」とのコメント。酒類卸売業からは、「原発事故に伴う風評被害の影響で、観光客数が低迷。酒類の消費が大きく落ち込んでいる」とのコメント。商店街からは、「本格的な冬に向かったの冬物商品の売上増や、年末年始での消費の伸びに期待」とのコメントが寄せられた。
 ○業況の先行き見通しDIは、全産業では今月と比べほぼ横ばいとなる見込み。産業別にみると、小売はマイナス幅が縮小するものの、建設は横ばい、他の3業種は拡大する見込み。

全産業DI（前年同月比）の推移

	11年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 12年1～3月
業況	▲ 43.4	▲ 35.5	▲ 39.5	▲ 32.8	▲ 29.0	▲ 32.3	▲ 32.9
売上	▲ 28.8	▲ 28.0	▲ 32.2	▲ 25.3	▲ 21.3	▲ 16.7	▲ 25.6
採算	▲ 38.1	▲ 31.3	▲ 35.3	▲ 29.9	▲ 25.4	▲ 27.7	▲ 32.8
資金繰り	▲ 24.9	▲ 20.0	▲ 19.9	▲ 20.6	▲ 16.7	▲ 16.1	▲ 19.6
仕入単価	▲ 35.8	▲ 32.4	▲ 32.2	▲ 29.6	▲ 28.5	▲ 23.2	▲ 17.1
従業員	▲ 5.8	▲ 3.3	▲ 2.6	▲ 3.2	▲ 2.0	▲ 2.0	▲ 2.3

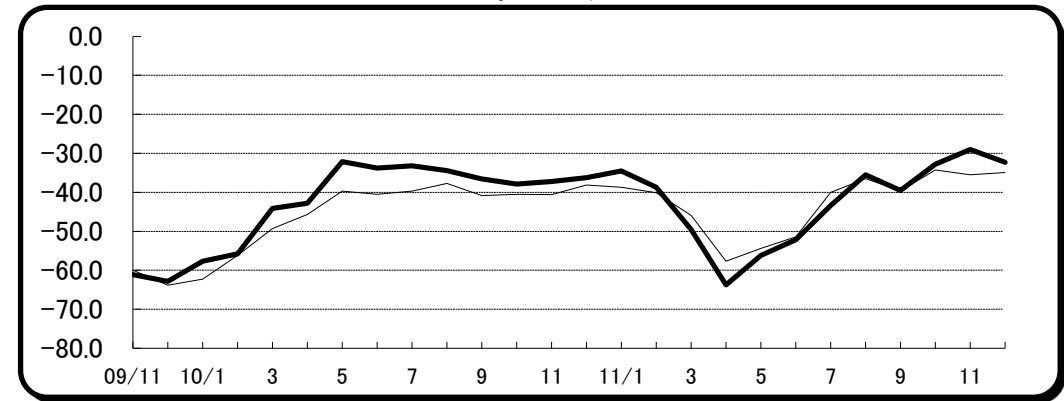
産業別業況DI（前年同月比）の推移

	11年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 12年1～3月
建設	▲ 41.7	▲ 50.7	▲ 42.4	▲ 27.0	▲ 23.5	▲ 35.0	▲ 35.0
製造	▲ 37.5	▲ 23.3	▲ 34.3	▲ 23.2	▲ 19.3	▲ 12.2	▲ 23.6
卸売	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 34.5	▲ 21.4	▲ 28.6	▲ 32.1	▲ 37.7
小売	▲ 40.4	▲ 40.2	▲ 45.6	▲ 43.0	▲ 41.2	▲ 42.3	▲ 30.2
サービス	▲ 52.1	▲ 34.8	▲ 40.2	▲ 42.3	▲ 31.3	▲ 39.0	▲ 40.0

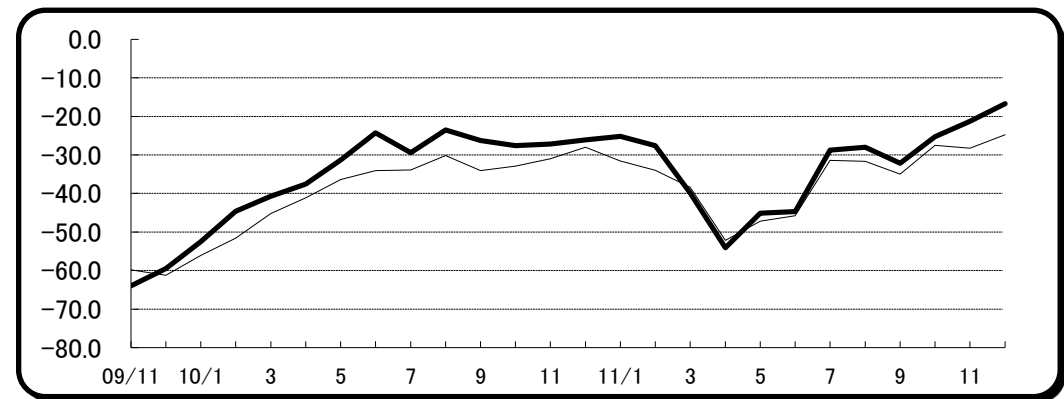
ブロック別全産業DI（前年同月比）の推移（関東）

—— 関東 —— 全国

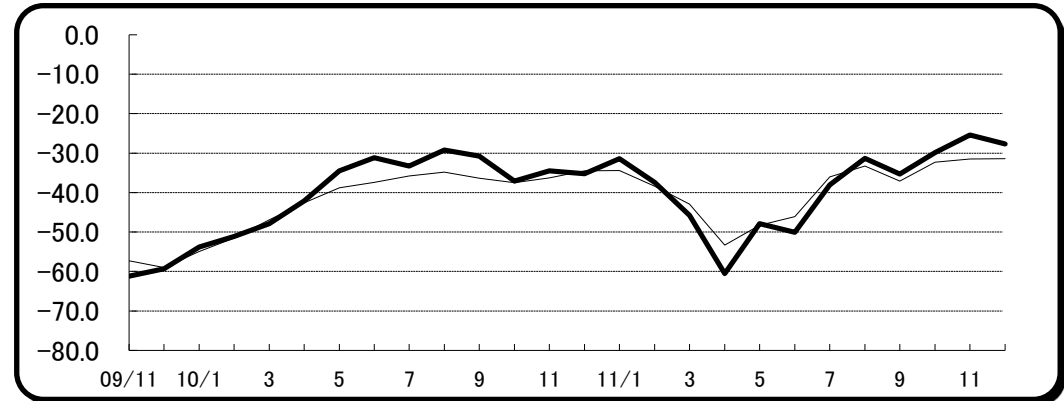
業況



売上



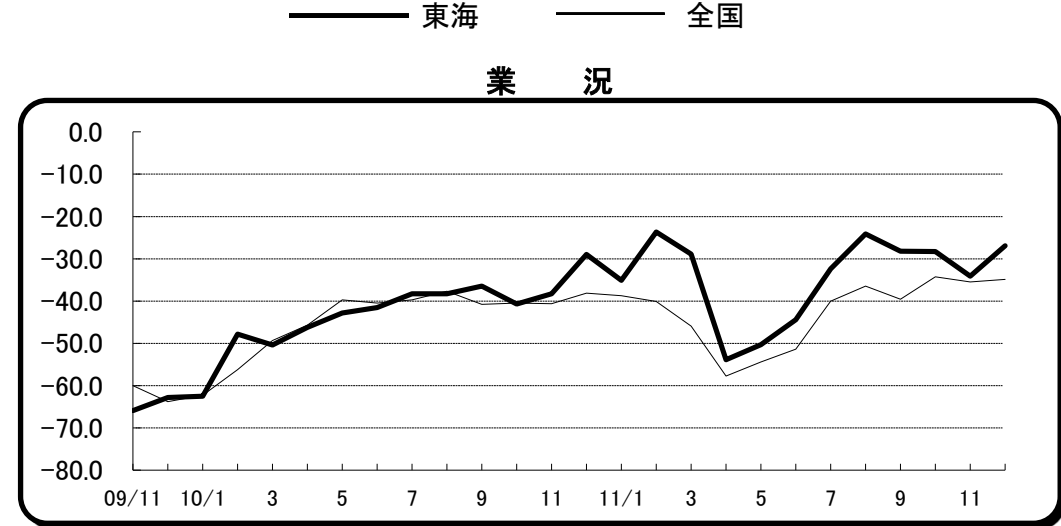
採算



【ブロック別概況・東海】

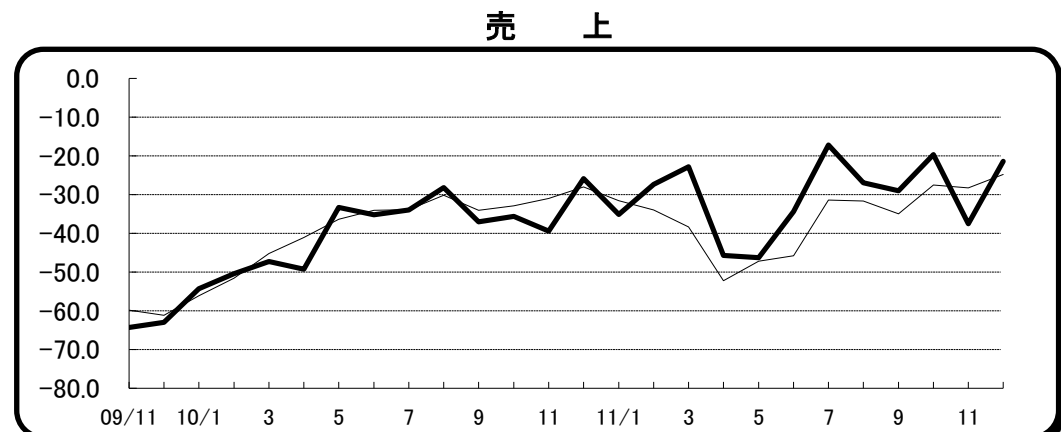
○全産業の業況DIは、マイナス幅が4カ月ぶりに縮小。産業別にみても、全ての業種でマイナス幅が縮小した。
 ○織物業からは、「円高が続き、輸入品の価格競争力が高まることが心配。一日も早い円高の是正を望む」との声、自動車部品製造業からは、「海外の子会社に円建てで材料供給を行っているが、円高のため、子会社の収益を圧迫してしまっている」とのコメント。百貨店からは、「暖冬傾向のため、冬物衣料が販売不振に陥っている」とのコメント。食堂からは、「津波等の情報収集や避難計画、災害発生後の復旧資金の確保について検討を進めている」とのコメントが寄せられた。
 ○業況の先行き見通しDIは、全産業では今月と比べマイナス幅が拡大する見込み。産業別にみると、小売はマイナス幅が縮小するものの、他の4業種は拡大する見込み。

ブロック別全産業DI（前年同月比）の推移（東海）



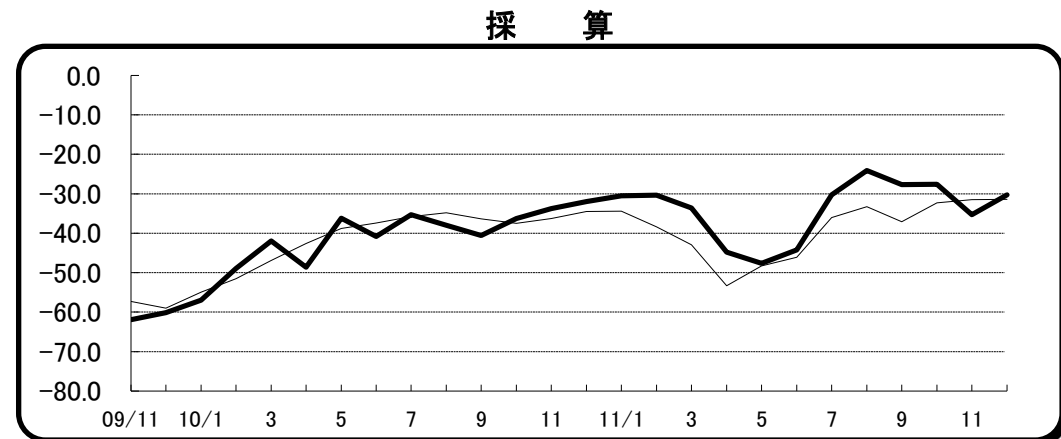
全産業DI（前年同月比）の推移

	11年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 12年1～3月
業況	▲ 32.4	▲ 24.1	▲ 28.2	▲ 28.3	▲ 34.1	▲ 26.9	▲ 30.6
売上	▲ 17.2	▲ 27.0	▲ 29.0	▲ 19.7	▲ 37.5	▲ 21.4	▲ 24.3
採算	▲ 30.3	▲ 24.1	▲ 27.7	▲ 27.6	▲ 35.3	▲ 30.3	▲ 21.0
資金繰り	▲ 14.3	▲ 13.1	▲ 19.0	▲ 16.8	▲ 18.2	▲ 17.9	▲ 18.7
仕入単価	▲ 26.6	▲ 26.6	▲ 28.7	▲ 19.2	▲ 17.9	▲ 18.9	▲ 18.3
従業員	1.4	4.3	1.5	1.6	0.0	▲ 2.8	▲ 4.2



産業別業況DI（前年同月比）の推移

	11年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 12年1～3月
建設	▲ 33.3	▲ 38.1	▲ 23.5	▲ 16.7	▲ 12.5	▲ 11.8	▲ 23.5
製造	▲ 7.9	▲ 7.9	▲ 18.9	▲ 21.9	▲ 24.4	▲ 21.4	▲ 26.2
卸売	▲ 58.8	▲ 50.0	▲ 46.7	▲ 60.0	▲ 64.3	▲ 47.4	▲ 50.0
小売	▲ 31.4	▲ 21.9	▲ 15.6	▲ 30.0	▲ 40.0	▲ 38.2	▲ 35.3
サービス	▲ 45.9	▲ 23.5	▲ 46.7	▲ 25.0	▲ 38.2	▲ 18.2	▲ 24.2



【ブロック別概況・近畿】

○全産業の業況DIは、マイナス幅が2カ月連続で縮小。産業別にみると、建設、卸売、小売、サービスはマイナス幅が拡大したものの、製造は大幅に縮小した。
 ○一般工事業からは、「自社の事業所が現在の耐震基準を満たしていないため、災害発生時における代替拠点の確保が課題」とのコメント。調味料製造業からは、「大豆、小麦、食塩等輸入品の価格が高止まりしている。取引先への納品価格に転嫁できておらず、採算が悪化」との声、自動車部品製造業からは、「タイ洪水により、大手二輪自動車メーカーが国内で増産を行っているため、一時的に受注が増加」とのコメント。百貨店からは、「気温の低下に伴い、冬物衣料の売上が増加」とのコメントが寄せられた。
 ○業況の先行き見通しDIは、全産業では今月と比べマイナス幅が拡大する見込み。産業別にみると、建設、小売、サービスはマイナス幅が縮小するものの、他の2業種は拡大する見込み。

全産業DI（前年同月比）の推移

	11年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 12年1～3月
業況	▲ 45.6	▲ 47.1	▲ 43.3	▲ 43.6	▲ 41.3	▲ 38.7	▲ 41.9
売上	▲ 42.0	▲ 45.3	▲ 46.7	▲ 37.6	▲ 30.6	▲ 31.0	▲ 40.1
採算	▲ 38.1	▲ 46.3	▲ 47.2	▲ 41.5	▲ 39.9	▲ 32.1	▲ 37.8
資金繰り	▲ 27.2	▲ 35.0	▲ 27.1	▲ 25.5	▲ 22.2	▲ 23.2	▲ 22.0
仕入単価	▲ 40.7	▲ 25.7	▲ 29.6	▲ 28.1	▲ 28.2	▲ 22.4	▲ 19.7
従業員	▲ 7.1	▲ 6.9	▲ 3.7	▲ 2.3	▲ 6.7	▲ 1.6	▲ 1.6

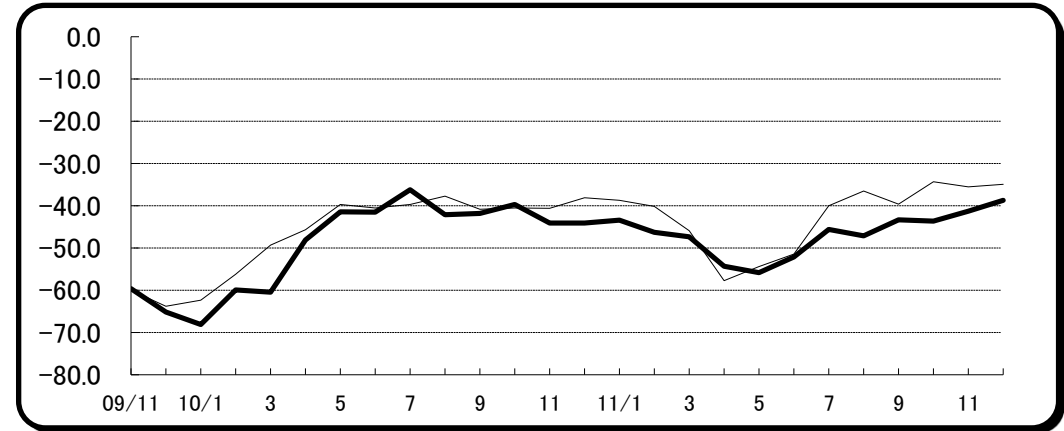
産業別業況DI（前年同月比）の推移

	11年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 12年1～3月
建設	▲ 54.5	▲ 63.6	▲ 44.4	▲ 50.0	▲ 47.6	▲ 50.0	▲ 40.9
製造	▲ 50.0	▲ 32.0	▲ 34.9	▲ 39.1	▲ 34.7	▲ 18.2	▲ 34.5
卸売	▲ 31.3	▲ 31.3	▲ 18.8	▲ 35.3	▲ 17.6	▲ 18.8	▲ 43.8
小売	▲ 44.9	▲ 54.4	▲ 56.9	▲ 49.0	▲ 48.1	▲ 49.1	▲ 43.6
サービス	▲ 42.1	▲ 52.3	▲ 44.4	▲ 42.5	▲ 47.4	▲ 55.3	▲ 50.0

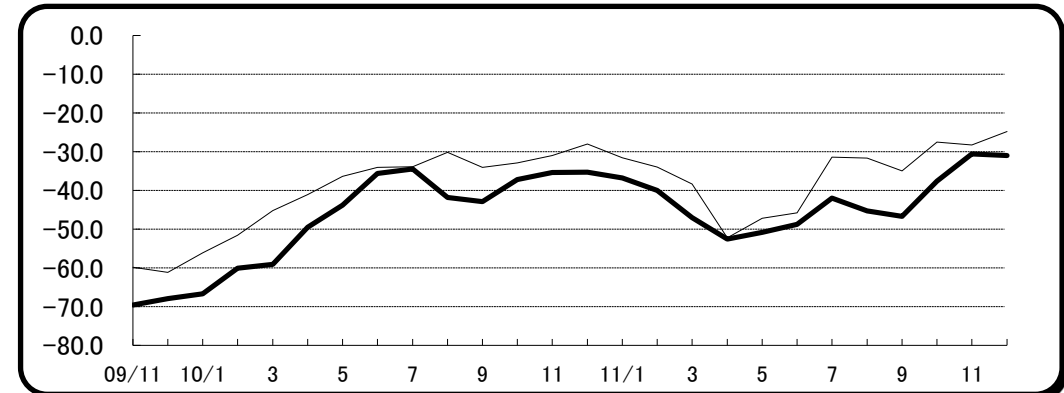
ブロック別全産業DI（前年同月比）の推移（近畿）

近畿 全国

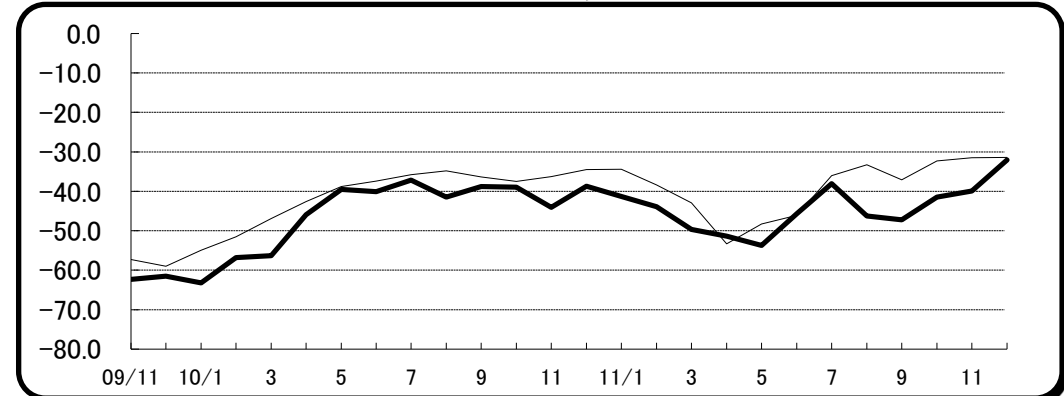
業況



売上



採算



【ブロック別概況・中国】

○全産業の業況DIは、前月と比べほぼ横ばいとなった。産業別にみると、製造、卸売、サービスはマイナス幅が縮小したものの、他の2業種は拡大した。
 ○建築工事業からは、「公共・民間工事とも減少が続いている。公共工事については今後も発注増が見込めず、経営が厳しい」とのコメント。自動車・家電製品金型製造業からは、「円高の影響で海外からの受注が落ち込んでいる。政府主導による円高対策を要望」とのコメント。建築材料卸売業からは、「取引先が中小企業金融円滑化法を利用し、資金繰りの安定につながっていることから、法律の延長は必要不可欠」とのコメント。食堂からは、「忘年会・新年会の予約が例年より少ない」とのコメントが寄せられた。
 ○業況の先行き見通しDIは、全産業では今月と比べマイナス幅が縮小する見込み。産業別にみると、サービスはマイナス幅が拡大するものの、建設、卸売は横ばい、他の2業種は縮小する見込み。

全産業DI（前年同月比）の推移

	11年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 12年1～3月
業況	▲ 47.3	▲ 49.5	▲ 46.1	▲ 48.0	▲ 47.8	▲ 47.1	▲ 42.5
売上	▲ 52.7	▲ 46.5	▲ 40.2	▲ 48.5	▲ 34.4	▲ 38.6	▲ 28.4
採算	▲ 41.9	▲ 30.7	▲ 36.3	▲ 41.6	▲ 32.2	▲ 29.5	▲ 24.1
資金繰り	▲ 38.0	▲ 33.7	▲ 30.7	▲ 31.6	▲ 33.7	▲ 29.9	▲ 28.7
仕入単価	▲ 26.4	▲ 21.0	▲ 14.9	▲ 22.2	▲ 21.3	▲ 20.7	▲ 15.1
従業員	▲ 15.1	▲ 23.0	▲ 13.7	▲ 17.0	▲ 14.4	▲ 18.2	▲ 14.8

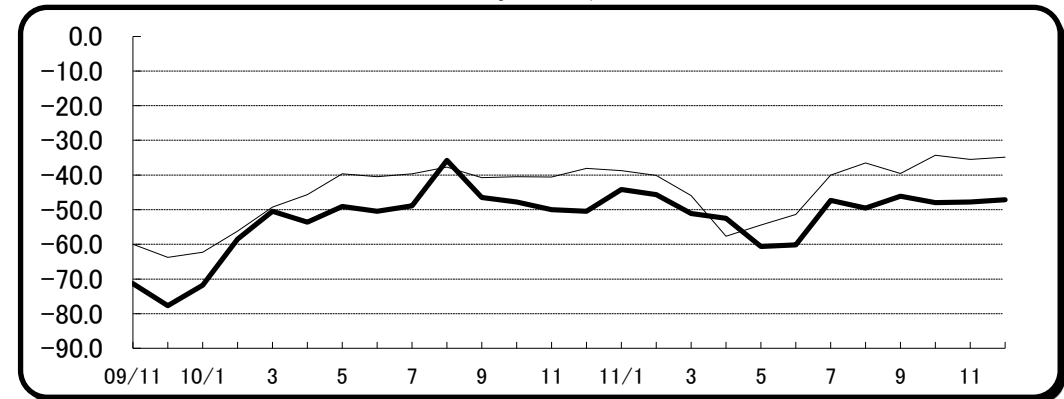
産業別業況DI（前年同月比）の推移

	11年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 12年1～3月
建設	▲ 66.7	▲ 61.5	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 18.2	▲ 40.0	▲ 40.0
製造	▲ 34.5	▲ 35.3	▲ 28.1	▲ 26.7	▲ 40.0	▲ 35.5	▲ 25.8
卸売	▲ 58.3	▲ 53.8	▲ 54.5	▲ 58.3	▲ 36.4	▲ 33.3	▲ 33.3
小売	▲ 46.4	▲ 56.0	▲ 59.3	▲ 66.7	▲ 75.0	▲ 76.2	▲ 61.9
サービス	▲ 53.3	▲ 56.3	▲ 50.0	▲ 56.3	▲ 50.0	▲ 46.2	▲ 61.5

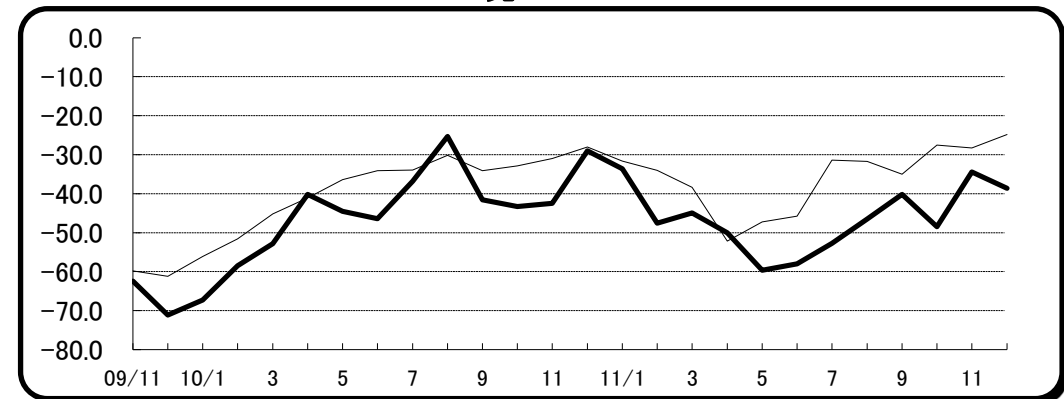
ブロック別全産業DI（前年同月比）の推移（中国）

——— 中国 —— 全国

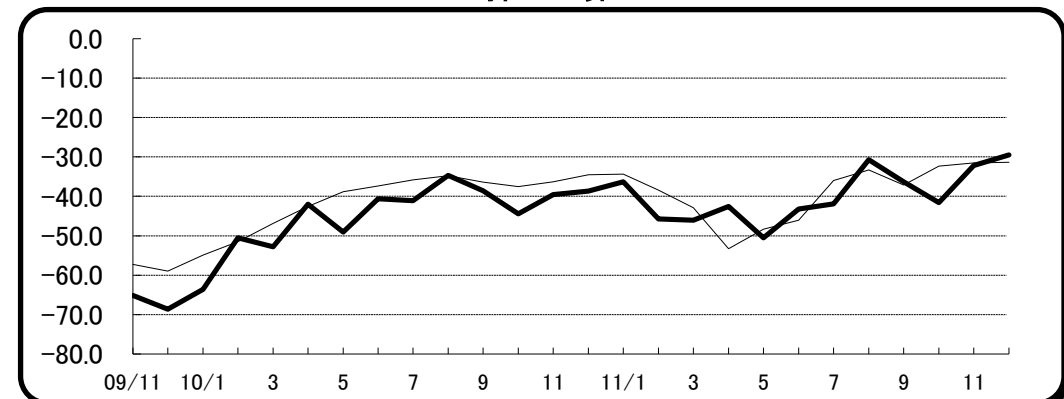
業況



売上



採算



【ブロック別概況・四国】

○全産業の業況DIは、マイナス幅が2カ月連続で拡大。産業別にみると、製造、小売、サービスはマイナス幅が縮小したものの、他の2業種は拡大した。
 ○一般工事業からは、「9月の台風で被害を受けた地域の復旧工事および津波等の災害対策工事の受注が増加」とのコメント。織物外衣製造業は、「暖冬により、冬物商品の売上が伸び悩んでいることから、生産を抑制している」とのコメント。商店街からは、「11月に大洲市がNHKで2週にわたって全国放送されたため、来客数が増加」とのコメント。一般飲食店からは、「米、野菜、海産物等から放射能物質が検出されないか心配」とのコメントが寄せられた。
 ○業況の先行き見通しDIは、全産業では今月と比べマイナス幅が縮小する見込み。産業別にみると、サービスはマイナス幅が拡大するものの、他の4業種は縮小する見込み。

全産業DI（前年同月比）の推移

	11年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 12年1～3月
業況	▲ 39.3	▲ 38.2	▲ 42.1	▲ 31.5	▲ 44.2	▲ 46.3	▲ 36.1
売上	▲ 28.8	▲ 40.0	▲ 45.6	▲ 28.8	▲ 37.2	▲ 36.1	▲ 36.1
採算	▲ 39.0	▲ 36.4	▲ 45.6	▲ 31.5	▲ 33.6	▲ 41.7	▲ 36.1
資金繰り	▲ 23.1	▲ 22.7	▲ 22.8	▲ 15.3	▲ 23.9	▲ 24.1	▲ 29.6
仕入単価	▲ 33.1	▲ 29.1	▲ 33.3	▲ 29.7	▲ 28.3	▲ 29.6	▲ 22.2
従業員	▲ 3.4	▲ 9.1	▲ 9.6	▲ 7.2	▲ 6.2	▲ 4.6	▲ 7.4

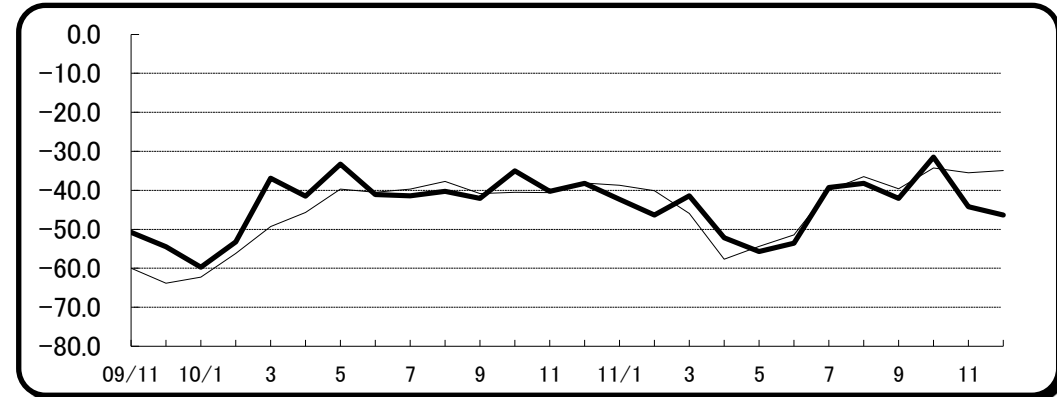
産業別業況DI（前年同月比）の推移

	11年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 12年1～3月
建設	▲ 50.0	▲ 65.0	▲ 65.0	▲ 55.0	▲ 45.0	▲ 58.8	▲ 41.2
製造	▲ 24.1	▲ 18.5	▲ 30.0	▲ 17.2	▲ 39.3	▲ 37.9	▲ 24.1
卸売	▲ 70.0	▲ 55.6	▲ 70.0	▲ 50.0	▲ 12.5	▲ 60.0	▲ 40.0
小売	▲ 20.0	▲ 38.5	▲ 39.3	▲ 25.0	▲ 58.6	▲ 51.9	▲ 40.7
サービス	▲ 56.7	▲ 32.1	▲ 30.8	▲ 30.8	▲ 42.9	▲ 36.0	▲ 40.0

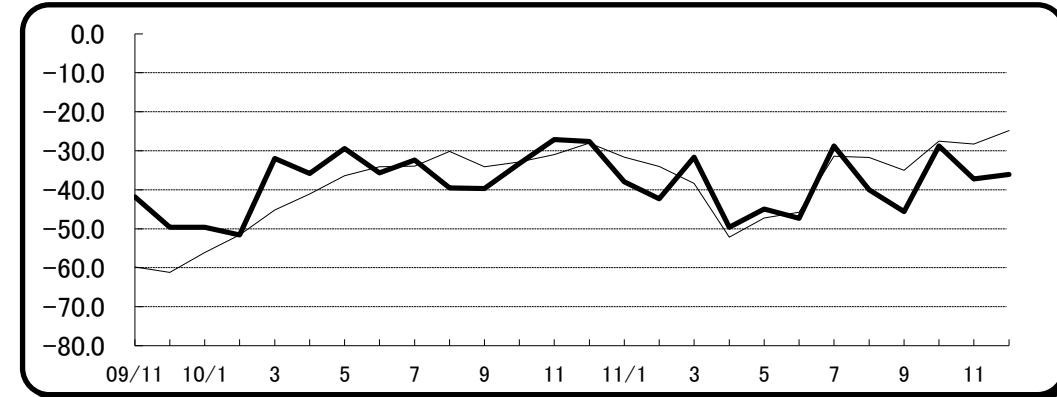
ブロック別全産業DI（前年同月比）の推移（四国）

—— 四国 —— 全国

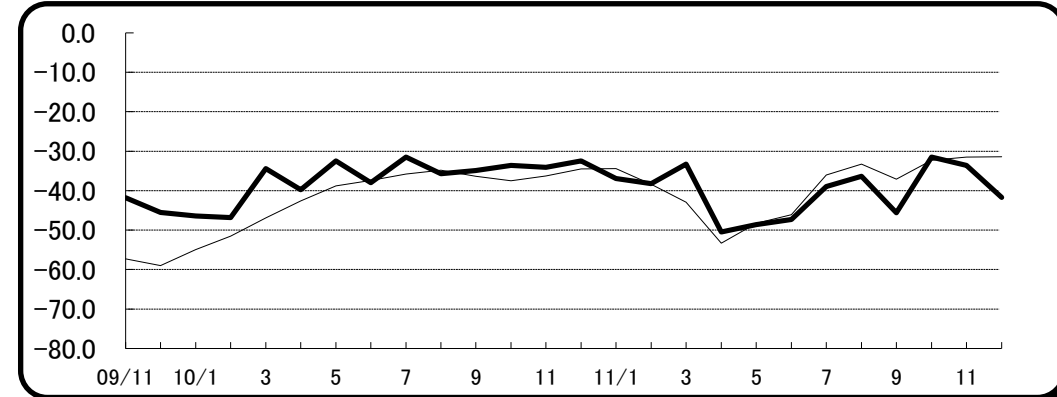
業況



売上



採算



【ブロック別概況・九州】

○全産業の業況DIは、前月と比べほぼ横ばいとなった。産業別にみると、卸売、サービスはマイナス幅が縮小したもの、他の3業種は拡大した。
 ○産業用電気機械器具製造業からは、「仕事は増えているものの、取引先からのコストダウン要請が厳しく、受注単価が低下しているため、利益の確保が困難」との声、建設・鉱山機械製造業からは、「円高による輸出の減少と原材料価格の高止まりが経営を圧迫している」とのコメント。茶類卸売業からは、「放射能汚染の影響を受けていないことから、消費者からの注文が多く、例年より売上が2割増加」とのコメント。旅館からは、「地元の原発が停止されており、原発作業員の宿泊がなく、経営が厳しい。原発の再稼働を強く希望している」とのコメントが寄せられた。
 ○業況の先行き見通しDIは、全産業では今月からマイナス幅が縮小する見込み。産業別にみると、製造、サービスはマイナス幅が拡大するものの、他の3業種は縮小する見込み。

全産業DI（前年同月比）の推移

	11年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 12年1～3月
業況	▲ 39.7	▲ 44.6	▲ 47.2	▲ 42.5	▲ 45.1	▲ 44.4	▲ 43.0
売上	▲ 31.3	▲ 35.1	▲ 35.8	▲ 32.4	▲ 32.6	▲ 33.3	▲ 41.5
採算	▲ 32.8	▲ 39.7	▲ 35.2	▲ 41.9	▲ 43.0	▲ 43.7	▲ 44.4
資金繰り	▲ 33.1	▲ 30.8	▲ 37.8	▲ 28.9	▲ 28.9	▲ 29.6	▲ 32.1
仕入単価	▲ 31.5	▲ 28.1	▲ 33.6	▲ 37.3	▲ 26.2	▲ 25.4	▲ 26.9
従業員	▲ 13.1	▲ 11.5	▲ 8.1	▲ 11.0	▲ 5.6	▲ 7.4	▲ 8.1

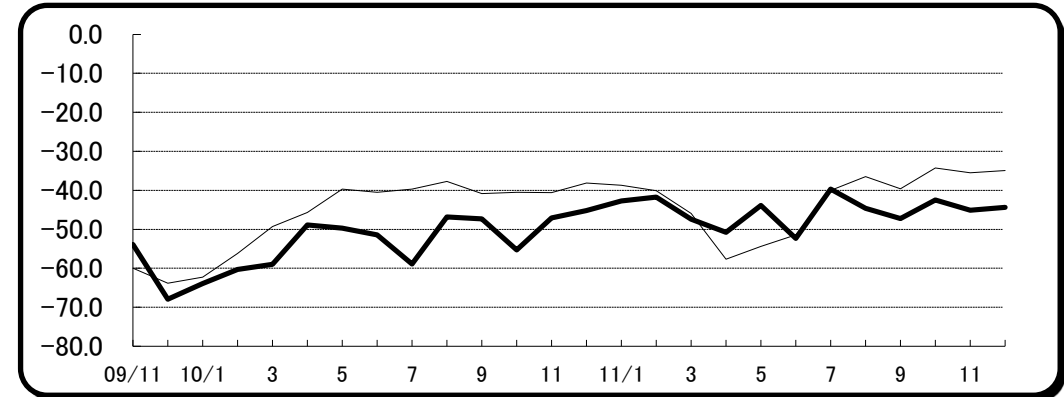
産業別業況DI（前年同月比）の推移

	11年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 12年1～3月
建設	▲ 68.2	▲ 65.2	▲ 45.0	▲ 54.2	▲ 58.3	▲ 65.2	▲ 60.9
製造	▲ 46.9	▲ 42.4	▲ 43.3	▲ 39.3	▲ 41.9	▲ 46.4	▲ 50.0
卸売	▲ 36.4	▲ 36.4	▲ 30.8	▲ 38.5	▲ 69.2	▲ 35.3	▲ 29.4
小売	▲ 33.3	▲ 42.9	▲ 57.6	▲ 32.4	▲ 41.0	▲ 52.8	▲ 47.2
サービス	▲ 20.0	▲ 35.7	▲ 48.1	▲ 50.0	▲ 34.3	▲ 22.6	▲ 25.8

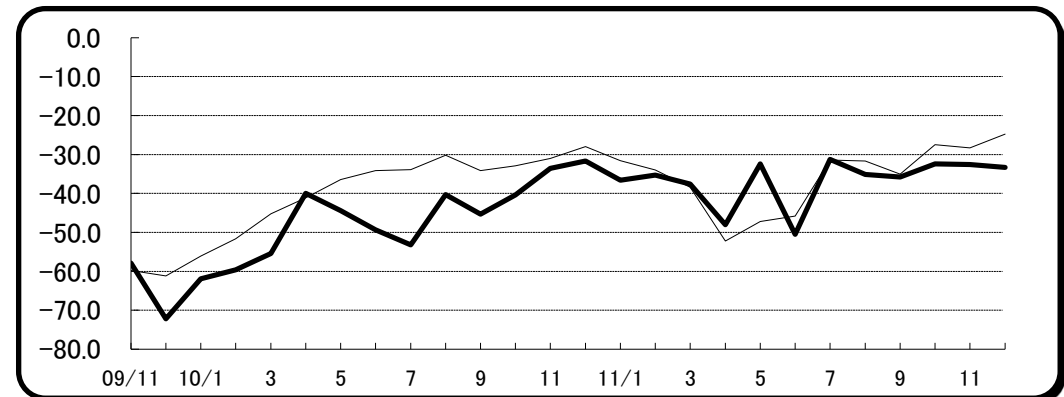
ブロック別全産業DI（前年同月比）の推移（九州）

九州 全国

業況



売上



採算

